

身体装飾について

第2報 独自性欲求との関連

Research on Personal Adornment Part 2 Need for Uniqueness

(2006年3月31日受理)

近藤 信子 宇野 保子 中川 早苗
Nobuko Kondo Yasuko Uno Sanae Nakagawa

Key words : 身体装飾, 独自性欲求, ユニークさ尺度

要 約

宮下(1991)のユニークさ尺度を用い独自性欲求を測定し、調査対象者をわが道型・抑圧型など4タイプに類型化した。これら4タイプと身体装飾行為との関連を検討し、次のような結果を得た。例えば、ヘアカラーの採用者・経験者は「抑圧型」タイプと「自己中心型」タイプが、概ね、「わが道型」タイプと「自己顕示型」タイプより、その割合が高いことがわかった。髪を染めた理由として「ファッションと合わせたいから」と答えたのは「自己顕示型」タイプと「自己中心型」タイプに多く、「気分や雰囲気を変えたいから」と答えたのは「自己顕示型」タイプに多くみられた。さらに「イメージチェンジをしたいから」と答えたのも「自己顕示型」タイプ「自己中心型」タイプに多く、これら2タイプには、「自己を積極的に表出する」という宮下が提示する一つの視点にそった特徴がみられる。「流行の髪型に合わせたいから」と答えたのは「抑圧型」タイプと「自己顕示型」タイプに多く、これら2タイプには、宮下が提示するもう一つの視点である「他者の存在を気にする」という周りの状況にそう同調化傾向がみられる。

このように独自性欲求4タイプには身体装飾行為や意識について、いくつかの相違がみられた。

はじめに

第1報でヘアカラー、ピアスの装着、眉剃りの3つの身体装飾行為は「変身願望」「おしゃれを楽しむ」「身だしなみ」とそれぞれ異なる意味合いを持ってファッションの中で採用されていることを明らかとした。この結果をふまえて、第2報では先行研究を参考に、身体装飾行為と性格特性との関連性を検討することを目的とした。

今回着目した性格特性はSnyder & Fromkin (1980)によって提唱された「独自性理論」によるものである。これは、「他者とは異なるユニークな存在でありたい」という独自性欲求を各個人が人間の基本的な欲求として備えている、ということ为前提とした理論である。我が国では、岡本(1982, 1985)が、これに関する先駆的な研究

を行っている。岡本はSnyder & Fromkinが作成した独自性欲求を測定する尺度について、その信頼性や妥当性について検討し、高い信頼性と妥当性が得られたことを報告している。この報告をもとに、宮下(1991)は新しい独自性欲求尺度(ユニークさ尺度)16項目(表1)を作成した。これは独自性欲求というものを、I「他者の存在を気にするか否か」、II「自己を積極的に表出するか否か」という2つの次元からとらえることにより、独自性欲求を「わが道型」「抑圧型」「自己中心型」「自己顕示型」の4タイプに分類することが可能であるとした。

本研究では、独自性欲求の強い人ほど身体装飾意識も強いのではないかという仮説をもとに、宮下の作成した「ユニークさ尺度」を用いて測定し、4タイプと身体装飾行為との関連性を検討した。

表1 ユニークさ尺度16項目

- (II) 1 引込みじあんである
 (I) 2 自分に対する他人の評価が気になる
 (II) 3 型にはまったことをするよりかわったことをしたい
 (I) 4 ついつい自分と他人を比較してしまう
 (I) 5 誰からも嫌われたくない
 (II) 6 我を通すことはあまり好まない
 (I) 7 他人が自分に反対するといやな気持ちになる
 (II) 8 人の話を聞くより自分で話していたい方だ
 (I) 9 世間体はそれほど気にしない
 (II) 10 いつでも積極的に自分の意見を述べる
 (I) 11 他人の行動にはあまり関心がない
 (I) 12 人に見られているとつかうをつけてしまう
 (II) 13 恥ずかしがりやである
 (II) 14 人から「生意気だ」とか「うぬぼれている」とか言われたことがある
 (I) 15 自分の容姿を気にする方である
 (I) 16 他の人に自分のことを認めてもらいたい

注) ユニークさ尺度の2つの次元

- (I) 「他者の存在を気にするか否か」
 (II) 「自己を積極的に表出するか否か」

方 法

1 調査の概要

平成15年12月、広島市に在住する大学生および社会人200人を対象に、配票留置法による質問紙調査を行った。質問紙の主な内容は、ヘアカラー、ピアスの装着、眉剃りそれぞれの実態を問う項目、採用理由、採用後の気分とイメージの変化およびユニークさ尺度16項目である。

2 分析の方法

ユニークさ尺度16項目の回答は5段階評定によりなされ、各項目とも、他者の存在を気にしないほど、そして、自己を積極的に表出するほど高得点となるよう5～1点を付与した。次に2つの下位尺度(Iの次元とIIの次元)別に平均値を算出し、これを基準として、調査対象者を4タイプに類型化し、4タイプと身体装飾行為や意識とのクロス集計を行い、相互の関連について検討した。

結果および考察

1 調査対象者の基本属性

質問紙の有効回収率は96% (有効回収数192票) であっ

た。調査対象者の基本属性は、男性74人(38.5%)女性118人(61.5%)、10代42人、20代113人、30代以上37人である。

2 独自性欲求4タイプの得点範囲

I「他者の存在を気にするか否か」、II「自己を積極的に表出するか否か」という2つの次元の5段階評定による4タイプの得点平均値の範囲を表2に示す。

表2 4タイプの得点平均値

類 型	範 囲	
わが道型	I \geq 2.6	II $<$ 2.9
抑圧型	I $<$ 2.6	II $<$ 2.9
自己顕示型	I $<$ 2.6	II \geq 2.9
自己中心型	I \geq 2.6	II \geq 2.9

「わが道型の独自性欲求」は「他者の存在を気にしない」「自己を積極的に表出しない」というタイプである。調査対象者の23.0%が「わが道型」タイプであった。

「抑圧型の独自性欲求」は「他者の存在を気にする」「自己を積極的に表出しない」というタイプである。調査対象者の27.7%が「抑圧型」タイプであった。

「自己顕示型の独自性欲求」は「他者の存在を気にする」「自己を積極的に表出する」というタイプである。調査対象者の21.5%が「自己顕示型」であった。

「自己中心型の独自性欲求」は「他者の存在を気にしない」「自己を積極的に表出する」タイプである。調査対象者の27.7%が「自己中心型」であった。

3 ヘアカラーについて

3-1 ヘアカラー採用者の実態

ヘアカラーの採用実態を図1に示す。“現在髪を染めている”人は「抑圧型」タイプが最も多く62.3%であった。次に多かったのは「自己中心型」タイプで54.7%を示した。“過去に染めたことがある”人と合わせると「抑圧型」の90%以上がヘアカラーの採用経験者である。一方ヘアカラーの未経験者は「わが道型」タイプに最も多く、43.2%と半数近い値を示した。

この結果には有意差 ($p < 0.01$) が認められ、ヘアカ

ラーの採用者・経験者は「抑圧型」タイプと「自己中心型」タイプが、概ね、「わが道型」タイプと「自己顕示型」タイプより、その割合が多かった。

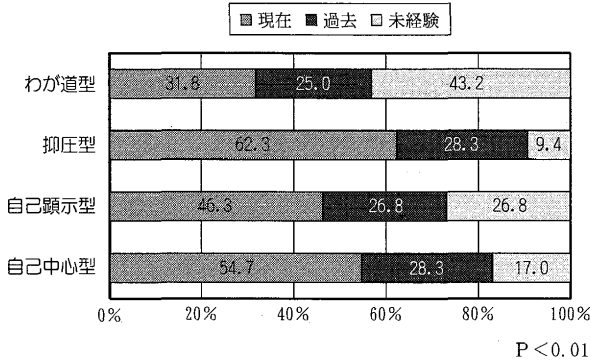


図1 髪染めの実態

3-2 ヘアカラーの採用理由

4タイプ間に有意な差が認められたヘアカラーの採用理由のいくつかを次に示す。

“気分を変えたいから”という理由については、「自己顕示型」タイプの80%、「抑圧型」タイプの60.4%、「自己中心型」タイプの59.1%が肯定した。

“イメージチェンジしたいから”という理由については、「自己顕示型」タイプの肯定率が最も高く66.7%を示した。「抑圧型」「自己中心型」についても半数の者が肯定していた(図2)。特に「自己中心型」タイプについては、肯定・やや肯定合わせると81.8%にも達した。

一方、以上の2項目については、「わが道型」タイプが最も肯定する率が低かった。

“ファッションと合わせたいから”という理由について最も肯定的であったのは「自己顕示型」タイプ(53.3%)で、次に多かったのは「自己中心型」タイプであった(図3)。

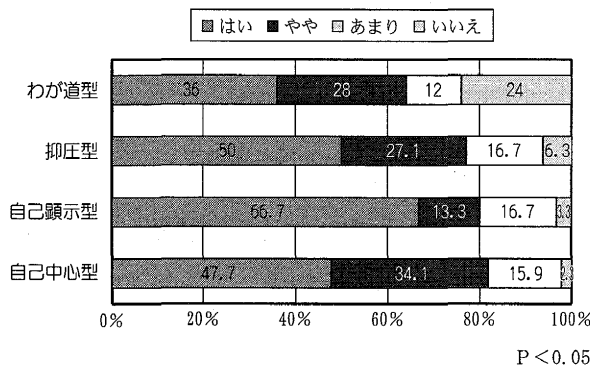


図2 ヘアカラーの理由イメージチェンジ

3)。

“流行の髪型に合わせたいから”という理由については、4タイプとも、先に述べた3つの理由に比べると肯定率は低く、なかでも、「わが道型」タイプの48%は「いいえ」と答えており、最も否定的であった(図4)。一方、「抑圧型」タイプについては肯定・やや肯定合わせると58.4%の割合を示した。

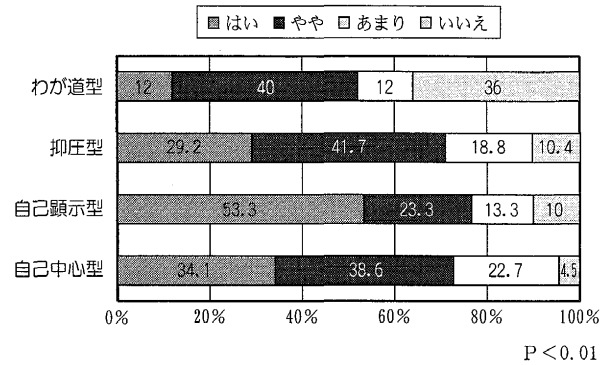


図3 ヘアカラーの理由ファッションと合わせたい

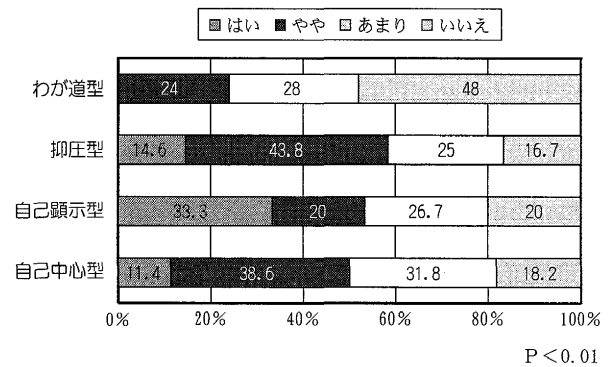


図4 ヘアカラーの理由流行の髪型に合わせたい

3-3 ヘアカラー採用後の意識

図5に示すように、ヘアカラー経験者は、採用後“かっこよくおしゃれになった”さらに図6に示すように“気分が明るくなった”としている。このように、その心理的効果を最も認めたのは、ともに「自己顕示型」タイプであった。

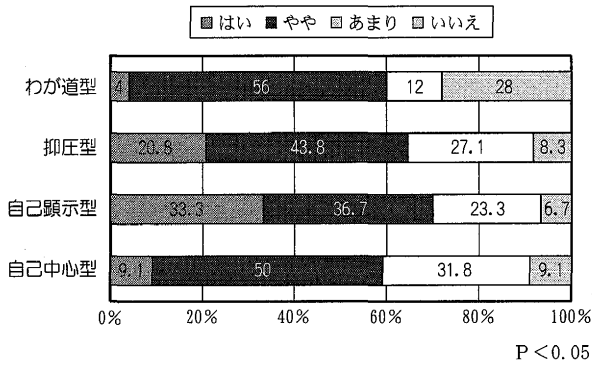


図5 ヘアカラー後の感想かっこよくなりました

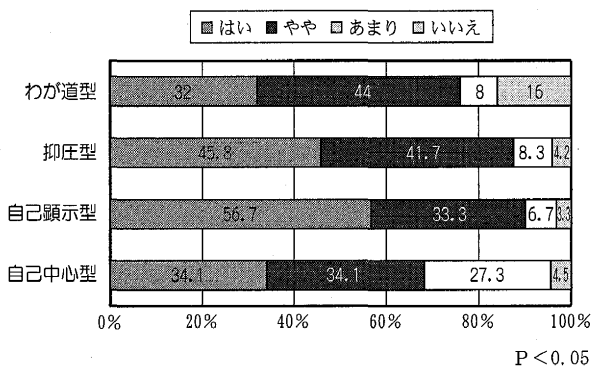


図6 ヘアカラー後の感想気分が明るくなった

4 ピアスについて

4-1 ピアス採用者の実態

ピアスについては、現在装着していると答えたのは27.6%，過去に装着していたと答えたのは11%，装着したことがない61.8%という結果であったが、4タイプとの関連はみられなかった。そこで、「現在過去あわせたピアスの装着経験者」と「未経験者」の割合について、4タイプとの関連を検討したところ、4タイプ間に有意な差が認められた(p < 0.05)。装着経験の有無について、その割合の差が最も大きかったの「わが道型」タイプで、装着経験あり25%，装着経験なし75%であった。次に割合の差が大きいタイプは「自己顕示型」で、装着経験あり29.3%，装着経験なし70.7%であった。装着経験が最も多かったのは「抑圧型」タイプで49.1%，次に多かったのは「自己中心型」タイプで45.3%であった。

4-2 ピアスの採用理由

ピアスの装着理由、装着後の意識について4タイプ間に差異はみられなかった。

一方ピアスの装着経験のないグループ(118人)にピアスをつけない理由について尋ねたところ、「興味がない

いから」という理由に4タイプ間の差異がみられた。この理由について最も肯定的であったのは「わが道型」タイプで68.8%が「はい」と答えた(p < 0.05)。

5 眉剃りについて

5-1 眉剃りの実態

現在眉を整えているのは「わが道型」タイプ61.4%、「抑圧型」タイプ83%、「自己顕示型」タイプ70.7%、「自己中心型」タイプ84.9%と、いずれも採用者の割合が高かった。しかしこの結果についての有意差は認められなかった。

5-2 眉剃りの理由

独自性欲求4タイプとの関連が認められた理由は“眉の形が気に入らないから”“気分を変えたいから”“かっこよく見せたいから”“身だしなみだから”の4項目であった。

図7に示すように“眉の形が気に入らないから”とするのは「抑圧型」が最も多く67.4%，次に多かったのは「自己顕示型」の52.9%であった。

“かっこよく見せたいから”とするのは「自己顕示型」に最も多く47.1%が肯定した(図8)。

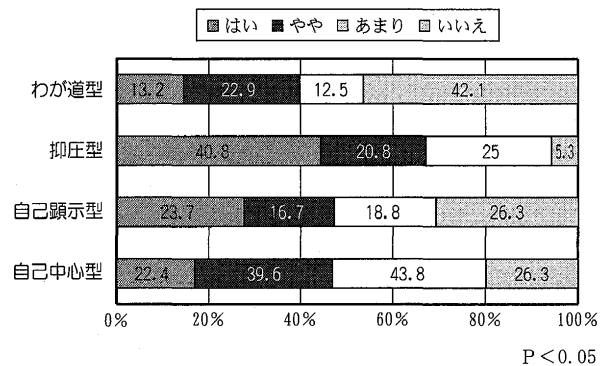


図7 眉剃り理由 形が気に入らない

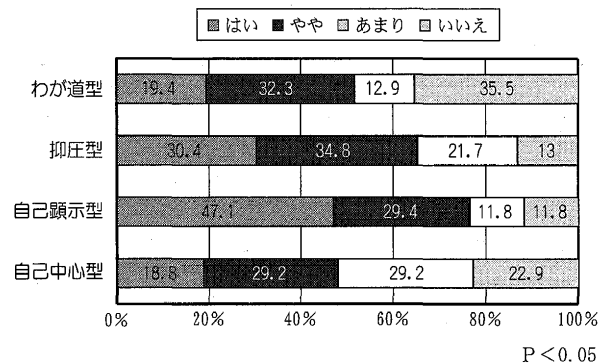


図8 眉剃り理由かっこよく見せたい

4タイプとも高い肯定率を示したのは“身だしなみだから”という理由で、「自己顕示型」76.5%「抑圧型」66.7%、「自己中心型」64.6%、「わが道型」46.9%であった(図9)。

4タイプと眉剃り後の意識については、関連は認められなかった。

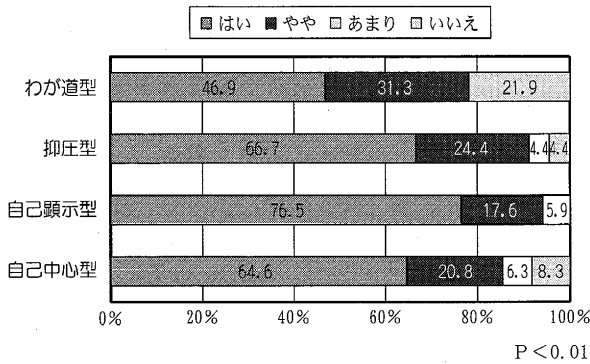


図9 眉剃り理由 身だしなみ

6 独自性欲求の種類と身体装飾との関連

上記の結果をまとめると、独自性欲求4タイプには、身体装飾に対する行為や意識に、それぞれ特徴的な面がみられることが明らかになった(図10)。

「わが道型の独自性欲求」タイプは、身体装飾行為の経験者(ヘアカラーとピアスの採用)が、他の3タイプに比べて最も少なかった。不採用(ピアス)の理由は、“興味がないから”である。

宮下は、このタイプは対人関係に惑わされずに、自分の目標を着実に実現させていくという印象で、独自性欲求の表出の仕方としては、最も成熟した類型のように思われると述べている。

「抑圧型の独自性欲求」タイプは、ヘアカラーとピアスの採用者の割合が4タイプ中で最も多い。採用の理由は“流行の髪型に合わせたいから”としている。周囲の人のことが気になるあまり自己の表出が抑制されているタイプであるが、周囲の人(他者)が採用するにつれて、

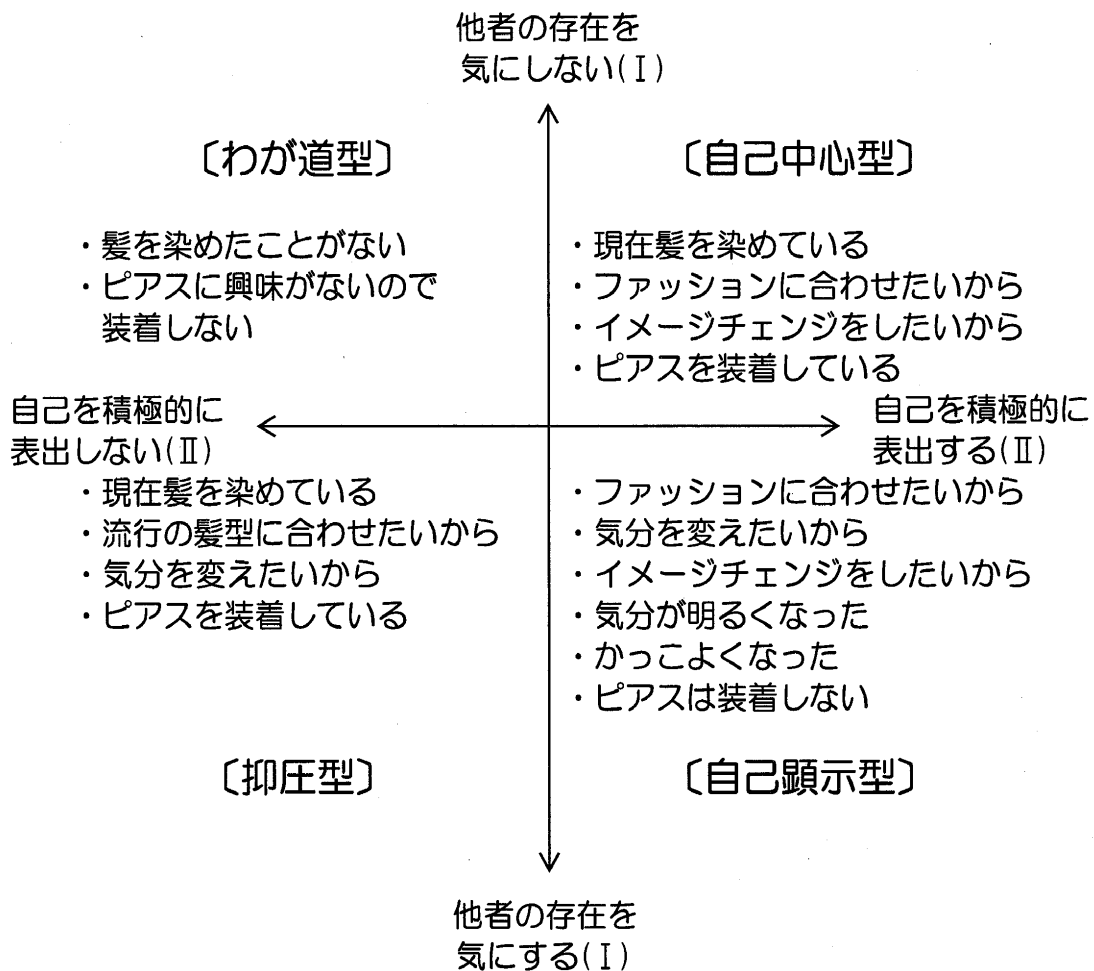


図10 独自性欲求の種類と身体装飾との関連

このことが圧力となり採用を始めるという同調化傾向の強いタイプであるといえよう。

「自己顕示型の独自性欲求」タイプには、身体装飾の採用理由として“気分を変えたいから”“イメージチェンジをしたいから”という変身願望の強さがみられる。

そして“ファッションに合わせたいから”というファッションリーダー的な一面もある。

自分が採用しようとしている新しい様式が、所属する集団（他者）の規範に逸脱しないかどうかを判断しながら自己表出を行うタイプといえよう。

「自己中心型の独自性欲求」タイプは、ヘアカラーとピアスの採用者が、比較的多く、その採用理由は“イメージチェンジしたいから”“ファッションに合わせたいから”としている。他者とは無関係に一方的に自己表出をするタイプであり、宮下は独自性欲求表出の仕方としては未熟なタイプであると述べている。

以上のように独自性欲求4タイプと身体装飾行為との関連では、採用実態と採用理由および採用後の心理的効果に関連がみられた。

項目ごとの評価に違いがみられるものの「抑圧型」「自己顕示型」「自己中心型」の各タイプは身体装飾行為の採用理由や採用による心理的効果にプラスの評価をしている者が多いのに対して、「わが道型」タイプは否定する者が多いことが明らかになった。

今後の課題

Kaiser(1985)は装飾の形態として、①一時的・身体的装飾 ②一時的・外部的装飾 ③永続的・身体的装飾 ④永続的・外部的装飾を区別している。これにしたがうと、ヘアカラーや眉剃りは、一時的・身体的装飾であり、ピアスは永続的・身体的装飾に分類される。

身体の一部を毀損することによって、ピアスは装着可能になる。そのため、ピアスの採用には一時的・身体的装飾とは異なる意識が働くのではないだろうか。これについては、今後の検討課題にしたい。

参考文献

- 宮下一博(1991) 大学生の独自性欲求の類型化に関する研究 *Japanese Journal of Educational Psychology*, 39, 214-218
- 岡本浩一(1985) 独自性欲求の個人差測定に関する基礎的研究 *The Japanese Journal of Psychology*, 56, 160-166
- 笹山郁生・永松亜矢(1999) 化粧行動を規定する諸要因の関連性の検討 *福岡教育大学紀要*, 48, 241-251
- 三宅邦建(1997) ルーズソックス, 茶髪, ポケベル: 流行現象の社会心理学的研究—採用者の性格, 選好, 情報収集, 社会的認知— *比較文化*, 3, 115-128
- 中村俊哉(1999) 茶髪・ピアスと西洋化に関する文化心理学 *福岡教育大学紀要*, 49, 229-237
- Kaiser S B(1985) *The Social Psychology of Clothing and Personal Adornment*. 高木修・神山進 監訳被服心理学研究会 訳(1994) 被服と身体装飾の社会心理学上巻 北大路書房
- 中川早苗編 近藤信子(2004) 新版被服心理学 *日本繊維機械学会* 129-140